

# 個数を数える関数

まずは、3種類の個数を数える関数を使って、さまざまな個数の数え方を行ってみましょう。

## チーム数を数える

まずは、チーム数を関数を使って数えます。さっき入力した、チームの番号を使って数えましょう。

「数値の入力されたセルの個数」を数えるには、**COUNT**関数を使います。

### COUNT (数値が入ったセルの個数を計算する)

- 書式 : COUNT(数値1, 数値2, ...)
- 引数 : 数値1, 数値2, ... : 個数を計算するセルの範囲
- 例: C1 ~ C10セルまでの数値が入ったセルの個数を数える

```
=COUNT(C1:C10)
```

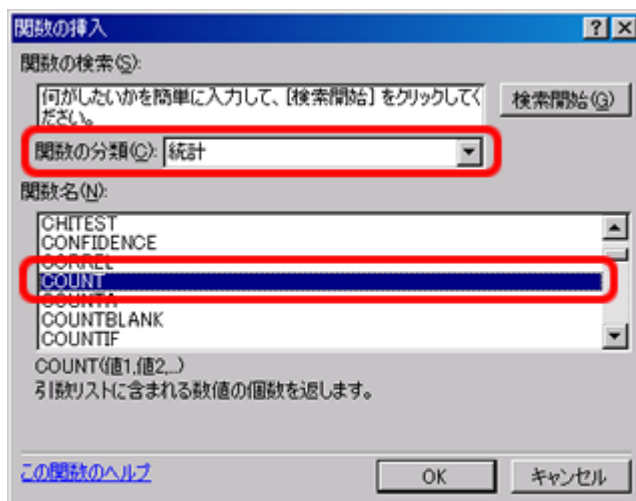
では、次のようにして、関数を使ってみましょう。

1. A20セルに「チーム数」と入力
2. B20セルをクリック
3. 数式バーの「**関数の挿入**」ボタンをクリック



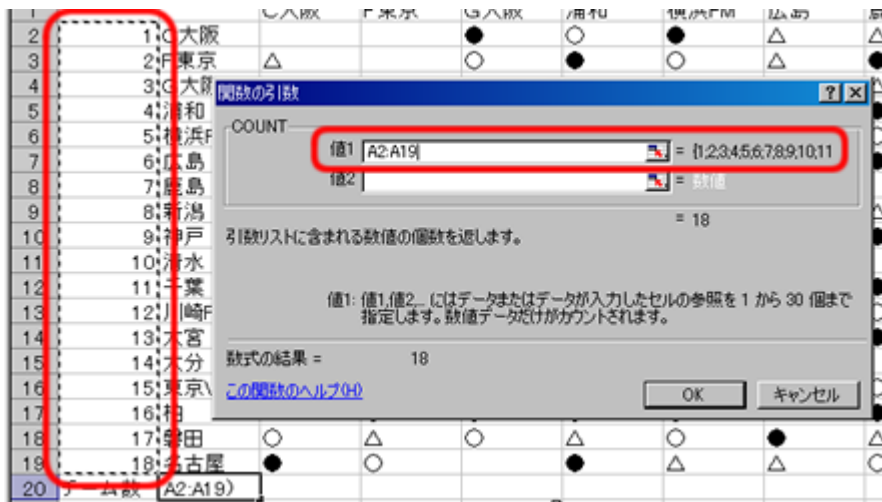
#### 4. 利用する関数の選択

- 「関数の分類」から「統計」を選択
- 「関数名」から「COUNT」を選択
- 「OK」ボタンをクリック



#### 5. 引数の設定

- 「値1」の入力欄をクリックし、A2 ~ A19セルをドラッグして範囲指定 (自動的に「A2:A19」と入力される)
- 「OK」ボタンをクリック



## 試合数を数える

次に、チームごとの、試合を開関を使って数えます。

COUNT関数では、数値の入ったセルの個数しか数えられません。そこで、「空白でない(値が入った)セルの個数」を数える、COUNTA関数を使います。

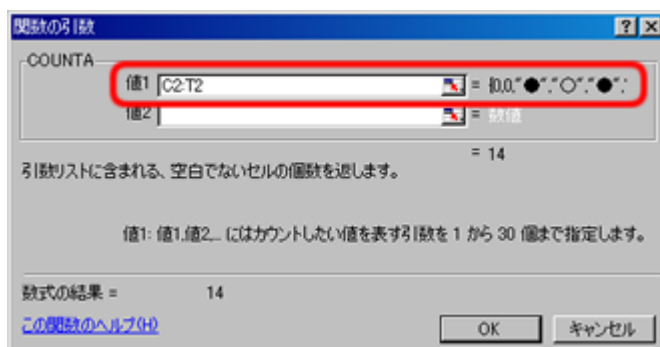
### COUNTA (空白でないセルの個数を計算する)

- 書式 : COUNTA(数値1, 数値2, ...)
- 引数 : 数値1, 数値2, ... : 個数を計算するセルの範囲
- 例 : D1 ~ D10セルまでの空白でない(値が入った)セルの個数を数える

=COUNTA(D1:D10)

まず、最初のチームの試合数を求めましょう。次のようにして、関数で求めます。1

1. U2セルをクリック
2. 数式バーの「関数の挿入」ボタンをクリック
3. 利用する関数の選択
  - 「関数の分類」から「統計」を選択
  - 「関数名」から「COUNTA」を選択
  - 「OK」ボタンをクリック
4. 引数の設定
  - 「値1」の入力欄をクリックし、C2～T2セルをドラッグして範囲指定 (自動的に「C2:T2」と入力される)
  - 「OK」ボタンをクリック



同じようにして、U3～U19セルに、残りのチームの試合数を求めましょう。

### 注意

関数を使うときに、引数に設定するセルの範囲（それぞれのチームの対戦結果）を選びことに注意しましょう。

## 勝敗を数える

次に、チームごとの、勝敗（勝ち・引き分け・負け）を関数を使って数えます。

対戦表では、勝ち・引き分け・負けは、「 」、「 」、「 」であらわされています。それぞれの記号の数を数えれば、勝敗の状況がわかります。

このように、特定の条件を満たすセルの個数を数えるには、COUNTIF関数を使います。

### COUNTIF（指定された範囲のセルのうち、検索条件に一致するセルの個数を返す）

- 書式：COUNTIF(範囲, 検索条件)
- 引数：範囲：個数を求めるセルの範囲
- 引数：検索条件：個数を求めるセルの検索条件
- 例：E1～E10セルまでの内容が「 」のセルの個数を数える

```
=COUNT(E1:E10," ")
```

検索条件には、次のような**比較演算子**を使います。条件を満たす場合は「TRUE」（真）、満たさない場合は「FALSE」（偽）と判断します。

演算子	式	内容	例	結果
=（等号）	A=B	AとBが等しい	1=2	FALSE
<>（不等号）	A<>B	AとBが等しくない	3<>4	TRUE
>（～より大きい）	A>B	AがBより大きい	5>6	FALSE
<（～より小さい）	A<B	AがBより小さい	7<8	TRUE
>=（～以上）	A>=B	AがB以上である	9>=10	FALSE
<=（～以下）	A<=B	AがB以下である	11<=11	TRUE

実際に、COUNTIF関数での検索条件は、次のように指定します。文字列を条件にする場合は、「」（ダブルクォーテーション）で囲みます。

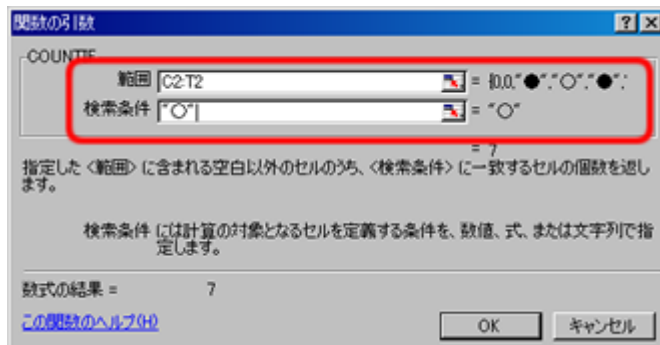
COUNTIF(A1:A10," ")	A1～A10セルで、値が「 」のセルの個数
COUNTIF(A1:A10,<>"")	A1～A10セルで、値が空白（"）以外のセルの個数
COUNTIF(A1:A10,<=10)	A1～A10セルで、値が「10以下」のセルの個数

まず、最初のチームの勝ち数を求めましょう。次のようにして、関数で求めます。

1. V2セルをクリック
2. 数式バーの「**関数の挿入**」ボタンをクリック
3. 利用する関数の選択
  - 「関数の分類」から「統計」を選択
  - 「関数名」から「COUNTIF」を選択
  - 「OK」ボタンをクリック

#### 4. 引数の設定

- 「範囲」の入力欄をクリックし、C2～T2セルをドラッグして範囲指定  
(自動的に「C2:T2」と入力される)
- 「検索条件」の入力欄に、「" "」と入力  
(「 ' 」は「まる」で変換できる)
- 「OK」ボタンをクリック



次に、最初のチームの引き分け数を求めましょう。

1. W2セルをクリック
2. 数式バーの「**関数の挿入**」ボタンをクリック
3. 利用する関数の選択
  - 「関数の分類」から「統計」を選択
  - 「関数名」から「COUNTIF」を選択
  - 「OK」ボタンをクリック
4. 引数の設定
  - 「範囲」の入力欄をクリックし、C2～T2セルをドラッグして範囲指定
  - 「検索条件」の入力欄に、「" "」と入力  
(「 ' 」は「さんかく」で変換できる)
  - 「OK」ボタンをクリック

さらに、最初のチームの負け数を求めましょう。

1. X2セルをクリック
2. 数式バーの「**関数の挿入**」ボタンをクリック
3. 利用する関数の選択
  - 「関数の分類」から「統計」を選択
  - 「関数名」から「COUNTIF」を選択
  - 「OK」ボタンをクリック
4. 引数の設定
  - 「範囲」の入力欄をクリックし、C2～T2セルをドラッグして範囲指定
  - 「検索条件」の入力欄に、「" "」と入力  
(「 ' 」は「まる」で変換できる)
  - 「OK」ボタンをクリック

## 計算式のコピー

これで、最初のチームの勝敗がわかりました。他のチームの勝敗を求めるために、最初のチームの勝敗を求める**計算式をコピー**しましょう。

計算式（つまりセル）をコピーするのに、**オートフィル**機能を使います。

（ [テキスト：147～148ページ](#) ）

1. V2～X2セルを範囲指定
2. 範囲指定の枠の右下にある（フィルハンドル）にマウスポインタを合わせる
3. 19行目までマウスを下方方向にドラッグ

勝	引分	負	勝率
7	3	5	

オートフィルができると、残りのチームの勝敗が求められます。

[次へ](#)に進んでください。

---

}}